学生が望む学習者支援

座長　松本京子　　萩原一美*

第62回国立病院総合医学会
（平成20年11月12日　於東京）

IRYO　Vol. 63　No. 10（637－640）2009

要旨　現在の看護・助産学生（以下学生）たちは学習面，経済面，友人・家族関係等において様々な問題を抱えて入学してくる．入学後，徐々に専門分野の学習が多くなり，臨地実習が開始されると新たなストレスが生じ，学習継続が困難になる場合がある．一方，自律した看護職者の育成には自己学習能力の獲得が必要であり，専門職業人としての学習方法を身につけることは看護教育における重要な目標である．

困難を乗り越える力が弱いといわれる現代の学生が，自ら抱えている問題を解決しながら学習を継続し，自己学習能力を培っていくためには学校・臨床における学習者支援が大きな位置を占める．学習者支援の充実は学生生活の充実，学生の能力向上に大きく影響する．また，臨床との連携による学習者支援は，将来看護師として活躍することへの意識向上につながり，実習施設への就職率にも影響する．

学生が学習者として尊重され，自己学習能力を獲得しながら，安心して学習に専念できるよう，学習者支援をする学校・臨床は，学生たちの学習者ニーズを把握し，ハード・ソフトの両面でどのように支援できるのか検討する必要がある．

キーワード　学習者支援，学習者ニーズ，自己学習能力

はじめに

学生生活における看護・助産学生（以下学生とする）への支援には，奨学金等の経済面，実習室・図書室や自習室等の施設・設備に関する環境面を含むハード面と，心身共に安定した学生生活が送れるようスクールカウンセラーの活用や，教員による学生個々への面接等のソフト面の両側面が必要である．さらには，自律した看護職者の育成に向けては，学生の自己学習能力が培われるような教育的支援が望まれる．

国立病院機構における看護学校の現状

国立病院機構の看護学校は全国に43校あり，1学年定員80-120名の大型校は20校で，そのうち助産学科を併設している学校は5校である．また，1学年30-40名の普通校は，23校である．

この43校の看護学校の役割は，3年間で看護師として必要な知識および技術を修得し，科学的根拠に

元　国立病院機構呉医療センター附属呉看護学校　副学校長，＊国立病院機構西埼玉中央病院附属看護学校　教育主事
別刷請求先：萩原一美　国立病院機構西埼玉中央病院附属看護学校　教育主事　〒359-1151　埼玉県所沢市若狭2-1671
（平成21年3月13日受付，平成21年10月16日受理）
What the Nursing Students Needs in Their School Life
Kyoko Matsumoto and Kazumi Hagiwara, Kure School of Nursing NHO Kure Medical Center, School of Nursing NHO Nishisaitama-chuo National Hospital
Key Words: support for nursing students, needs of nursing students, self-learning ability

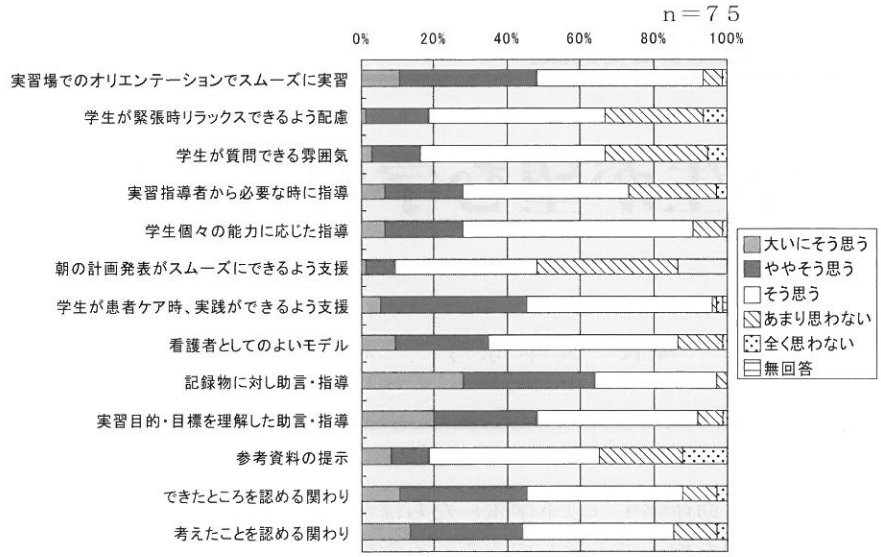

図１　臨地実習における実習指導者の関わりについての学生の認識

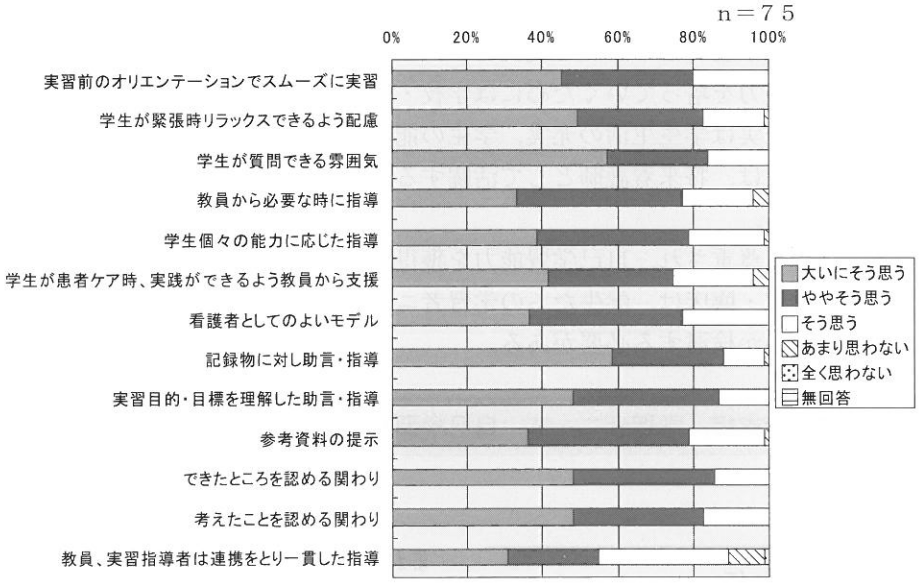

図２　臨地実習における教員の関わりについての学生の認識

基づいた思考力，判断力，創造力を持ち，社会情勢の変化に対応した看護が実践できる看護師の育成である．

各校の学習進度はおおよそ，学年があがるにつれて専門科目が増え，２年次後半から臨地実習が本格的に開始される．臨地実習とは，講義・演習で学んだことを基に，対象の状況に応じた看護実践を経験する学習方法である．この学習の過程で，学生たちは学習意欲を高め自己学習能力を獲得していく．一方，臨地実習は学生にとってストレスフルな経験でもあり，もっとも学習支援を必要とする学習過程でもある．

A校における臨地実習の学習者支援の現状と学習者のニーズ

看護基礎教育において臨地実習という経験型の学習方法は，看護を実践できる看護師を育成するためには欠かせない学習方法である．しかし，３年間の学習の中で，臨地実習はストレスフルである．臨地実習での学習者支援を行う側の教員・実習指導者，病棟スタッフは協働しながら実習指導を行っている．教員と実習指導者のそれぞれの役割は，表１に示すとおりである．実習指導者は，日常看護業務と兼務で学生指導に関わっているが，忙しい日常看護業務

表1　臨地実習における教員・実習指導者の役割

教員の役割
1）学生に実習目標、学習内容を提示し実習への動機づけをする
2）教育方針、実習目標、学習内容、学生の準備状況を臨床指導者が理解できるよう伝える
3）学生の実践において指導者、看護スタッフ間の連絡調整を行う。とくに患者の安全に配慮する
4）学生の思考過程が明確になるように、実習行動計画の調整を行う。
5）看護技術の妥当性や看護場面で得た体験を意味づけし、既習学習内容との統合が図れるよう指導する
6）学生の看護実践能力を適正評価し、指導する
7）患者の安全のために、必要に応じて指導者との綿密な連絡・調整を行う。
8）学生の学習上の問題、事故等の発生時には速やかに対応する
9）学生の実習目標の達成度を評価し、今後の課題が明らかになるよう指導する

実習指導者の役割
1）学生の受け持ち患者のケアに責任を持ち、患者の安全を守る
2）患者の状態をふまえ、学生が立案した行動計画の妥当性について指導する
3）学生の看護行為、とくに看護技術が適切かどうか判断し、助言・援助を行う
4）学生看護実施について学生の思いを確認しながら、学生が実践の根拠を明らかにするよう助ける
5）学生の看護実践能力の到達度を適正評価し指導する
6）学生の看護実践の指導に関して、看護スタッフ間の連絡調整を行う
7）学生に看護実践の役割モデルを示す
8）教員との連携を図り、学生の到達目標の達成へ向けて協力する
9）実習中の問題、事故発生時には担当教員と共に対応する

の中でも学生の主体性を大切にし，前向きで熱心な実習指導を展開している．一方，学習者支援を必要とする学生の臨地実習における学習者ニーズには，どのようなものがあるのだろうか．A校の，臨地実習での教員・実習指導者の学習支援に対する学生の認識を，アンケート結果（図1・図2）から考える．

A校は1学年定員80名で，臨地実習の8割を母体病院と，近隣の国立病院機構の病院で行っている．

1）臨地実習における教員に対する学習者支援の学生の認識と教員の役割

学生が教員に求める学習者支援の中で，「教員・実習指導者は連携をとり一貫した指導をしている」の項目が，他の項目と比較すると低かった．

2）臨地実習における実習指導者に対する学習者の認識と実習指導者の役割

学生が実習指導者に求める学習者支援の中で，①朝の計画発表がスムーズにできるように支援してほしい　②学生が緊張時リラックスできるように配慮してほしい　③学生が質問できる雰囲気をつくってほしい　④必要な時には指導をしてほしい　⑤参考資料を提示してほしい等の5つの項目で学習者ニーズが低いことがわかった．

また，アンケートの自由記載の中には，実習指導者の指導で学習意欲に繋(つな)がった内容として，①質問に対して本や資料を提示してくれたこと　②できたことを褒められ，さらに付け加えて助言をもらった　③自分の考えを認めてもらえたことなどがあり，これは「褒められたい，認められたい，より深く学習したい」という学習者ニーズととらえられる．

学習者支援のあり方

看護基礎教育において専門職業人を育成するためには，自己学習能力の獲得が課題である．すなわち，学生が臨地実習での看護実践を振り返り，意味づけ

ることは，自己学習能力の意欲的・主体的に学ぶ力を育むことに繋がる．また，指導者は，学生の経験に焦点をあわせ，学生が自分自身で臨地実習における経験を意味づけ，自己の看護を形成していくように支援する．指導者の，学生の看護に対する考えを聴き助言することは，学生が今後の看護の方向性を自ら引き出し，看護実践に結びつけていく過程に繋がっていく．

臨地実習という学習方法は，指導者と学生の相互作用であり，学生はこの学習経験から，看護の意味を引き出すことができる．学校・臨床は，学生の学習課題の解決に向けた行動を導くような環境を提供し，学生生活の充実をはかり，学生の自己学習能力の獲得に向けた学習者支援を行う．

このように，臨地実習での経験を積み重ねていくことで，学生は自己学習能力を獲得していくが，その獲得の過程を促進するには，学生が心身共に安定した状態で学習に取り組めるよう，自習室や図書室やスクールカウンセラーの設置など，ハード・ソフトの両面からの学習者支援が必要である．学習者のニーズに即した学習者支援があれば，学生は，看護実践に充実感を持ち，自己の看護の意味づけを追求し，将来看護師として活躍することへの期待感を持ちながら卒業を迎えることになるであろう．

おわりに

学習者支援について臨地実習を中心に，学生の学習者ニーズと学習者支援のあり方について述べた．看護実践能力の育成や，専門職業人として必要な自己学習能力獲得に向けた学習者支援は，学生が学習支援として何を望んでいるかという学習者ニーズと，それにできる限り対応しようとする学校・臨床側の支援体制が必要である．そのためにも，今後ますます学校と臨床の連携が重要となってくる．